

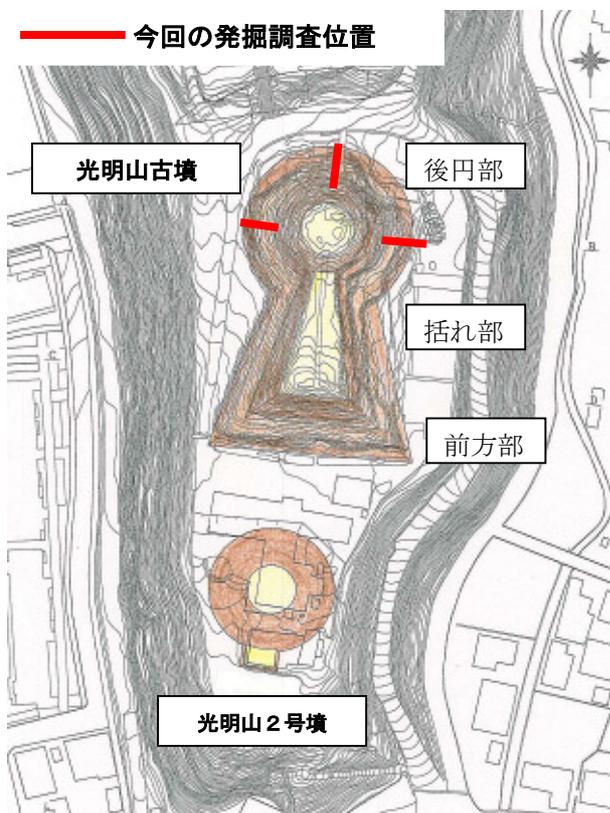
光明山古墳発掘通信 №1

浜松市文化財課（浜松市地域遺産センター） 2018年3月20日

光明山古墳の発掘調査を始めました。

浜松市文化財課では、2018年3月12日（月）から浜松市天竜区山東にある光明山古墳の発掘調査を開始しました。光明山古墳は、全長は約82mの前方後円墳で、5世紀中頃に造られたと推定されています。光明山古墳は、浜松市内で最も大きな古墳であり、この古墳が造られた5世紀中ごろに限定すると、静岡県内でも最大の墳丘規模を誇ります。光明山古墳ではこれまでに、測量調査が行われ、墳丘の中間に平坦面がめぐることや、古墳の表面には葺石が施されていたこと、埴輪が立て並べられていたことが明らかになっています。また、2015年には、東側括れ部付近で行われた弓道場の解体工事に伴い発掘調査を行い、埴輪が多く出土しました。

今回の発掘調査は、築造された当時の後円部の大きさや残存状態等に関わる情報を得るために実施しています。



光明山古墳群の構造と今回の調査位置

（静岡県教育委員会 1998 を転載・加筆）



空から見た光明山古墳

光明山古墳と光明山古墳の南側に所在した光明山2号墳を合わせて光明山古墳群と呼称しています。光明山2号墳では全面的な発掘調査が行われ、直径33mの円墳で南側に造り出しと呼ばれる方形の平坦面が付属していることが明らかになります。

調査開始1週間の発掘調査成果を紹介！

- ◆ 墳丘の表面に葺石が施されていることを発掘調査で初めて確認しました



姿を現した葺石

古墳の斜面には葺石が施されていました。葺石には縦に目地が通る部分があり、葺石を施工した順序等を知る手がかりになります。

- ◆ 埴輪が大量に出土しています。



出土した埴輪

埴輪が豊富に出土しています。古墳の上に立て並べられた埴輪が転落した状態で出土しました。墳丘の途中に設けられた平坦面で、立て並べられた状況が確認できる可能性があります。

【発掘調査のご案内】

- ◆ 光明山古墳の発掘調査は、3月・4月中の平日、天候に恵まれた日のみに実施しています（不定期に作業を休止しますのでご注意ください）。
- ◆ 来訪者の方には調査状況を紹介いたします。

※雨天時は休工します。
※都合により作業を休止することがあります。
※発掘調査現場には段差や傾斜等があり、大変危険です。無断での立ち入りはご遠慮ください。

